

グローバルな社会で 必須の力を習得



政府が持つべきさまざまな観点についてプレゼン

ビジネスの場で役立つ 英語力を養う

将来は海外で仕事をしたいという目標を持つ私にとって、実践的な英語力と国際的な問題解決力を高められる共創グローバル人材プログラムは、とても魅力的なプログラムだと感じられました。入学試験合格の直後から始まった選考では、100人近くの志望者から最終的に選抜されたのは11人。そのうちの一人に残ったことは自分自身でも驚きでしたが、このプログラムに参加したいという熱意を伝えられた点が良かったのではないかと思います。本プログラムは、日本人学生とほぼ同数の留学生とで構成されます。日本人学生は専門の英語授業を週に2コマ受講し、アウトプットに焦点を当てたトレーニングを受けることができます。授業はネイティブ教員によってすべて英語で行われます。毎週、英語でのライティングやプレゼンテーションの課題が多く



YUKICHI MORIMOTO

森本 裕吉
経済学部
東大津高校(滋賀県)

出され、経済学部における通常の学修と並行して課題をこなしていくのはかなり大変でした。でも、がんばってやり抜いた分、成長できたとの実感があります。英語力が伸びたのはもちろん、文章作成のテクニックや論理的で効果的に人に伝える発表の仕方にも身につけることができました。英語で自分の考えをしっかりと相手に伝える力は国際的なビジネスの場で必須の力だと思うので、将来の目標に向けて良い勉強ができたと思います。

留学生を含めた 仲間と一緒に成長

留学生と共に受講する週1コマの授業は、グループでの議論や発表を通して、世界の現状に対する問題意識を向上させることを目的としたものです。たとえば留学生の出身地に日本企業が進出した時にどのような戦略をとればよいか、などのテーマで意見を交わしました。多様な価値観が混在する環境で学ぶ中、自分が当たり前だと思っていた常識や考えは、国や文化によって異なるのだと気づけました。また、プログラムの授業はいずれも少人数で構成され、1~2回生の2年間、とても密度の濃い学修をすることができました。学びへの意欲の高い仲間と親睦を深め、一緒に成長できた時間は、何ものにも代えがたい経験です。今後、海外インターンシップにチャレンジし、在学中にさらなる経験を積みたいと考えています。今の私が考える将来の具体的な目標は、新興国地域で日本の技術やテクノロジーを普及させる仕事に携わること。日本の国際競争力を高めると共に、現地の人々の生活水準の向上に貢献したいと考えているからです。在学中に鍛えた力がどのくらい通用するのか、実社会で試せる日がくるのを楽しみにしています。

制度紹介

語学力と国際感覚を磨く少人数制

海外の成長市場への対応という日本の社会的ニーズと、日本で学びたい、働きたい留学生のニーズの両方に応えるために経済学部を設置された発展的学習プログラム。コースは1学年あたり日本人学生20人程度と留学生10人程度で構成され、多様な価値観と国際的な文脈を学びます。さらに日本人学生は少人数制の英語授業、留学生は日本語授業で語学力を伸ばし、在学中には日本人学生は海外で、留学生は日本で、インターンシップに参加します。



共に学ぶ留学生と日本人学生